啓岡

－同窓会だより－

No.94（平成24.8.12発行）

富山県立魚津高等学校同窓会

舞踏　そして旅回り

森田慶次

舞踏という踊りのジャンルがある事をご存じですか？

舞踏という言葉そのものが踊りを意味しますが海外ではＢＵＴＯＨと書いて私が活動しているジャンルを指します。

前衛芸術として一九六〇年頃日本で始まり、創始者である土方巽、および大野一雄から影響を受けた多くの人が日本のみならず海外でも活動しています。

私は一九七五年から山海塾というグループの創立メンバーとして活動し、世界四十八カ国で公演活動を行ってきました。ステージネームは蝉丸といいます。

山海塾のダンサーは男性のみで、舞台に立つときは髪の毛を剃り、全身を白く塗っています。衣裳もいろいろ着るのですが、裸に近い場面もありますのでその印象が強いようです。

ＮＨＫの芸術劇場という番組や東芝のテレビコマーシャルに出演した事で全国的に有名になり舞踏というと山海塾のスタイルを思い浮かべる人が多くいるようです。

しかし実際には舞踏家を名乗る人たちは女性もいれば日本人以外の人種の人もいますし、何よりも踊り方や演出の仕方が多種多様です。

山海塾は現在ダンサー八名ですが公演ツアーに行くときは舞台監督、照明、音響、制作がそれぞれ一名ずつ同行し現地スタッフ二十名ほどと一緒に舞台設営します。公演はプロダクションやブッキングエージェントと呼ばれる人たちが現地主催者と交渉し、私たちは出演料を頂いて自分たちの作品を上演します。

一年の半分はホテル暮らしで大都市では一週間以上滞在する事もありますが、たいてい移動した翌日に舞台の設営、次の日に公演、その翌日移動という繰り返しで、小さい都市は三泊四日で移動していきます。

三十八年もやっていますので同じ町を訪れる事はよくあります。国が無くなって新しい名前になったところを再訪した事もあります。

私は朝日町藤塚という農村地域の出身で魚津高校卒業後東京の大学に進学し、そこで舞踏と出会い山海塾の設立に加わり大学は二年生の時に中退しました。故郷には滅多に戻る事はありませんでしたが、「誰か故郷を思わざる。」です。異国の地で風変わりなものと出会ったり、珍しい食べ物を頂いたり、仕事上の意外な違いなど沢山の経験をしてきましたが、外にいると日本や故郷の良いところ悪いところをいろいろ感じます。自分が日本人である事、富山の片田舎の出身である事を強く感じます。

五年前娘が中学に入るのをきっかけに故郷に戻る事にしました。年老いた母が一人暮らしをしていて病気になった事もあり妻と娘二人を説得してＵターンしました。私は同じ仕事を続けているので相変わらず留守がちです。家族には本当に感謝しています。

生まれ故郷で舞台活動を続けるために私の個人的なグループである黒藤院の施設として富山に工房、倉庫、稽古場などを充実させてきました。遠い昔、外の世界にあこがれた私ですが、今は遠い未来に「舞踏を古典として残す」という夢をまどろみながら見ています。

（舞踏家　魚高二十六回卒）

退職を前にして

赤川雅和

魚津高校には、第一応援歌と第二応援歌というのがあって、どっちがどっちだったかは忘れたが、それは、「緑微笑む…」とうたう弾むような明るい旋律のものと「ああ玲瓏の…」とうたう重厚で引き締った曲調のものとであって、それぞれが、母校の自由で闊達な気風と伝統を誇り継承しようとする思いとを象徴していたように思います。

入学も早々に、団長の裏返った声をクスクスと笑った奴はとどやされて、次々と出る愚問・極論、「却下します」は議長の権限、総会の熱はいやにまし、あまりにも時代の先取り二期制は、試験範囲と農繁期の手伝いに恨みを残し、七十周年の記念とて、制服・制帽で市中を行進、江藤俊哉の何者かは知らず、北陸随一、自慢の図書館、ここだけは内履き使用にて、勝閧の砂ぼこりは舞い上がり、肩車にて恩師いざなう石組プールの、高い高い飛び込み台に、夕立降るなか立ちすくみ、唾での楕球みがきを免除され、あぜ道を走って帰るは汽車通の特権、駅前の集会、世のはやり、上り下りのホームでは、エールを切って今日の健闘、讃えあう、繕ったテントはやはり雨漏り馬場島、憧れの方との語らいはスイカとともに流れ去り、いつものことの脱線は英語の時間に万葉集、「籠もよ、み籠持ち…」と唱えたら、褒められ、そやされその気になって、なぜか十九世紀から開始の世界史で、紹介された小説を次々読んで、性に目覚め、書物に思いを寄せ初めたが、撓まぬ勉強はしないふりするのが意気伊達で、浜辺でこんがり焼いた受験生、吹き荒れる学園紛争よそにして、人類の大きな飛躍は月の石、大阪万博に浮かれ出し、三島の割腹、衝撃に理屈にもならぬ討論会、卒業式は大雪の後のきらきら輝くよい天気、校歌を歌い太鼓の音に送られて。

母校での勤務八年間。武者修行をするつもりで、転勤を申し出たら、あっさり認められました。ちょっと行ってくるはずが、あれから実に十八年です。再び母校にお世話になることのないまま、図書館で生徒ならぬ本に囲まれながら、教員生活の最後を迎えようとしています。あの時の離任式でのあいさつを思い出します。「母校に脈々と流れているのは、新川の雄としての誇りと、やんちゃでたくましい在野の精神だ。また会おう。」と。この愛着は、私の勝手な思い入れでしょう。しかし、今、呉羽山の緑の滴りに目を休める時、ふっと耳に響くのはあの応援歌であり、連綿と続く思い出とともに何かしらの無念の思いが湧き上がるのです。

（県立図書館長　魚高二十三回卒）

校歌制定六十周年に思うこと

木谷寿之

今年は魚津市制六十周年の年です。実はあまり知られていませんが、本校の校歌も昭和二十七年の制定以来、六十周年を迎えました。作詞・藤島宇内、作曲・團伊玖磨の両名によって制作された校歌の一番の歌詞は、夢と希望に満ちた若い力が加積野の地から、富山湾の白い波しぶきのように大きく舞い上がることを期待した一年生の歌です。イメージは純白、一年生の校章の色です。一年生の教室がある四階からは大きく広がる富山湾が望めます。

二番の歌詞は、緊張感も薄れモヤッとした青春真っ只中の二年生の不安定な心理を「喜見の城影波遠く」で表現しています。イメージはブルー、二年生の校章の色です。でも最後に「悩みあるわが友よ、もろともに歌わずや」と結び、切磋琢磨せよと示唆しています。

三番の歌詞には、最高学年としてアルプスを明るく、雪が燃えるように染める朝日のように、魚高生は紅の魂を持ち清らかに強くあって欲しいという三年生への願いが込められています。校章の色は深紅といきたいところですが、やや茶系が混ざった赤です。これは真の魚高魂はそれぞれが世の中へ出た後に、自分自身が生活の基盤をしっかりと築き、社会貢献できるようになった時に初めて深紅になるという将来への期待を込めた色だと思います。教室から見える雄大な僧ケ岳は勇気を与えてくれます。

このように本校の校歌には、応援歌としての要素が含まれています。藤島氏、團氏ともに他界されており、特に藤島氏に作詞の意図を確認することはできませんが、十六年ぶりに本校に赴任した私は校歌及び校章について、ずっとこのような解釈を持ってきました。

魚津高校百年史によれば、この校歌は応援歌としても歌える新しい校歌を制定したいという当時の岩田英治校長の思いから制作されています。また、直接校名を繰り返す通常の校歌とは異なり、雄大な自然と未来の輝きを詠い込んだ歌詞と曲は、今日から見てもユニークであり、野球部が昭和三十三年の甲子園初出場の際、蜃気楼旋風といわれる活躍をし甲子園で三度歌った校歌は全国に響き渡り、各地から歌詞と楽譜の希望が相次いだことが載っています。

さらに、私自身もそうでしたが、結婚式や同級会等、同窓生の集まる機会には校歌が声高らかに歌われることも多く、在校生はもとより卒業生の精神の根底に魚高魂が流れる基盤となる名曲として、六十年もの間歌い継がれてきました。また今年の入学式では、混声四部合唱曲に編曲された校歌を、音楽部の生徒が美しい歌声で披露し、大好評を得ました。

このような歴史と、深みのある素晴らしい校歌・校章を持つ本校で勤務できる誇りを胸に、校歌制定六十周年という節目の年に更なる新しい歴史を積み重ねられるよう生徒とともに精進して行きたいと思います。そしてこの校歌が還暦を迎えた記念すべき年に、甲子園で四度目となる「富山湾」を歌うことを、野球部監督として密かに狙っています。

（魚高二十九回卒）

二回目の成人式を迎えて

米澤祐治

高校を卒業後、県外の大学を出て、地元の役所に勤務してはや、十七年。毎年、チケット購入に協力してきた魚津高校同窓会もいよいよ幹事の年を迎えました。

同窓会の準備等で同級生の皆さんに会ってみるといろんな話が聞こえて、「おお、頑張ってるな～。」と思う人もいれば、「昔と変わらないな～。（いい意味で）」と思う人もいます。同窓会当日に行われる同級会では「高校のときは気づかなかったけど、実はこいつすごかったんだ。」と大人になって改めて気づくことができるのではないかと思い、とても楽しみです。（「自分はどうなのか？」というのは不問にしてください。）

最近は、子どものスポーツ少年団の保護者会のお世話をし、毎週末、息子と一緒にグランドへ行っています。子どもたちが思ったとおりのプレーができないとき、本当はプレーでお手本を見せることができればいいのですが、なかなかそれもできず、口ばっかりになってしまいます。そんな自分にややもどかしさを感じながらも、息子以上に週末を楽しみにしています。

一昨年、その息子が小学校で「½成人式」という行事を行いました。それからいうと、今年は私にとって「二回目の成人式」を迎えることになります。体力面では子どもに抜かれるのも秒読み段階ですが、子どもの良き理解者となり、精神面では子どもとともにまだまだ成長を続けていかなければと思っています。

あれから21年 こんな毎日です

（魚高43回生より）

羅針盤

山口正人

先日、ちょっとした用事があって魚津駅に降り立ち、考え事をしながら歩き出した。周囲も碌に見ず、頭の中は別のことでいっぱいだったのだが、ふと気がつくと、魚津高校の裏まで来ていた。道を間違えたことを恥ずかしく思いながら戻ったのだが、見渡すと景色が「あの頃」と大きく異なっていることに驚いた。二十年の月日はこうも街を変えるものなのかと実感。そして、もう一つの驚きが、景色がこんなに変わっているのに、三年間通った「あの道」を、いまだに身体が覚えていたことである。私の身体には、どうも、自動的に母校にたどり着ける機能が備わっているらしい。

大学を卒業し、富山の地で教壇に立ちながらも、日々悩みは多い。思えば、悩んで迷いぬいた二十数年だったように思う。しかし、そんな時、暗闇の中で進む先を決めてきたものは、母校で学んだ貴重な経験ではないだろうか。「あの頃」思い描いた夢や希望、かなわなかったこともあるけれど、かなえるために努力してきたことが糧となっている。一時間三十分かけて毎日通学した「あの道」は、自分に自信をつけてくれた。魚津高校で学んだ日々は、目的を見失って迷子になりそうな自分を、そっと軌道修正してくれたように思う。

高校生たちが学校からたくさん出てきた。部活帰りなのか、みんな目をキラキラさせている。夢遥かなり―すべての魚高生にとっての「羅針盤」として、これからも行く先を示してあげてほしいと願う。

紅は我が心

吉倉紀子

春の遠足　雪の大谷

「早く課題を出しなさい。」「部活動を一生懸命やりなさい。」外に出れば四十人の生徒の母。家に帰れば三人の息子の母。大学四年間を県外で過ごした私は故郷の魚津に戻り、高校の教壇に立つこと、早十八年目となりました。

日々、若者に囲まれ過ごしているので、いつも心は卒業した二十数年前のまま…のはずなのですが、寄る年波には勝てず、最近では生徒とちょっと一緒に動いたりすると（よせばいいのですが）息が上がるようになってきました。思い起こせば高校時代の私はそんなに勉強や部活動を熱心にやっていた訳ではなかったのですが、気がつくと高校教師になっていました。

季節を肌で感じ、体育大会や部活動の試合、受験に汗し、涙し、笑いあう生徒を見るにつけ、「ああ、やっぱり高校生っていいなあ」と思います。若いエネルギーは素晴らしく、自分の限界に挑戦する姿を目の当たりにすると、ついつい自分も頑張ってしまいます。

でも、そんな自分の頑張りの原動力となっているのは私をいつも支えてくれる家族であり、生徒であり、魚津高校で過ごした三年間だと思っています。魚津高校で素晴らしい先生方や友人たちと巡り会え、今の自分があることに感謝しつつ、何らかの形でいつか母校に恩返しができればいいなと思います。

「我が心　紅に染まるまで」厳しい平成を生き抜くためには辛いことも多いですが決して自分の限界を決めることなく魚津高校で培った「魚高魂」を忘れずに頑張っていきたいです。

私の夢

荒尾恒

今年、全国高等学校総合文化祭が富山で行われました。昨年は震災県の福島県でした。福島の高校生たちが演じた創作劇の中で述べられ、国会でも取り上げられた言葉が心に残っています。福島を富山に言い換えて、「富山に生まれて、富山で育って、富山で働いて、富山で結婚して、富山で子どもを産んで、富山で子どもを育てて、富山で孫を見て、富山でひ孫を見て、富山で最期を過ごす。それが私の夢なのです。」

大学は県外でしたが、富山に戻って働き、富山の人と結婚もできました。私は男なので子どもは産めませんが、もうすぐ五歳の長男と三歳になった次男に恵まれました。日々の仕事に追われながら、子育てにもがんばっています。孫やひ孫を見るのはずっと先の話かもしれませんが、最期を富山で過ごせればと思っています。

三度目の成人に向けて

真部洋子

二十一年前、あの頃何を考えていたのだろう。思い出そうとしても思い出せない自分が悲しいけれど、きっと何か楽しい未来をただ漠然と思い描いていたんだろうと思います。

そんな私は今、富山県内を西へ東へひた走りながら!?　富山の情報誌を作っています。しあわせな気分になれるスイーツだったり、定番のあのお店の隠れメニューだったり、リフレッシュできるおでかけだったり……。富山でのいつもの毎日に、ちょっとのHappyがプラスできるような情報をカタチにしています。

その中で、本当にたくさんの方々と出会ってきました。そして人のパワーに感化され、人のあたたかさに和み、人のつながりの強さに感嘆し、人に支えられながら楽しい日々を繰り返してきました。そんなこんなで、もう四十歳。相変わらず明確な未来は描けていないけど、これからは、ほんの少しでもパワーや優しさを与えられる人になれたらいいなぁと、ほんのり思ってます。白髪、シミ、タルミ、更年期？

初老の洗礼を心地よく受け入れつつ、三度目の成人に向けて。

学校便り

入学式にて校歌披露（4／9）

対面式 肩を組み校歌を歌う（4／10）

さわやか運動（6／12）

春季大会　高校総体

女子バスケットボール部 ベスト８

サッカー部

部成績

○春季大会　・野球部　ベスト８

○富山県高校総体

・陸上競技　女子100m　３位　女子200m　７位
　女子砲丸投　６位　女子やり投　６位
　男子八種競技　７位　北信越大会出場
・剣道　５位　北信越大会出場
・レスリング　２位　北信越大会出場
・男子ソフトテニス　男子個人戦　ベスト16　北信越大会出場
・水泳　男子100m自由形　１位　男子50m自由形　１位
　女子100m平泳ぎ　３位　女子200m平泳ぎ　３位
　男子200mバタフライ　４位　男子100m背泳ぎ　５位
　北信越大会出場
・男子バレーボール　ベスト８
・女子バスケットボール　ベスト８

○第７回北信越チアリーディング選手権大会

・応援（チア）　規定演技　第３位　全国大会出場

○全国高等学校ダンスドリル選手権大会

・ダンス同好会　甲信越大会　１位　全国大会出場

○第48回富山県高等学校将棋選手権大会

・将棋部　男子団体戦　３位

○富山県高校放送コンテスト

・放送部　アナウンス部門　優秀賞２名、優良賞２名
　朗読部門　優秀賞３名
　テレビドラマ部門　優秀賞１名
　ラジオドラマ部門　優良賞
　テレビドキュメント部門　優良賞
　ラジオドキュメント部門　優秀賞２位
　研究発表部門　優良賞
　最優秀校

○第40回富山県吹奏楽コンクール

・吹奏楽部　高校Ａ部門　金賞並びに富山県代表　北陸吹奏楽コンクール出場

○第59回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト

・アナウンス部門　優秀賞　紺屋　柾人
　入　選　相川有希美
・ラジオドキュメント部門　優良賞

関西魚中会総会

幹事長　菊地克信

関西魚中会（旧制県立魚津中学校）の第十五回総会は四月二十二日、ラマダホテル大阪で開かれた。菊地克信幹事長の司会で開会。

魚中校歌をピアノ伴奏で斉唱した。高三孝成会長が、「百十三年の魚中の伝統と、会員の交流、人と人とのつながりがいかに幸せなことか」と挨拶した。総会は、高三会長が議長を務め、一般報告は菊地幹事長。会計報告は吉崎敬副幹事長。監査報告は川崎良浩副幹事長で議事が進み、京都魚高会、大久保祥司氏が自己紹介した。

広田久義幹事が総会終了の挨拶。懇親会は荻野均相談役の乾杯で開会、木下駿一氏の司会で始まり、傘下に七十の小学校があり、入試倍率が二・五倍にもなり厳しかった話題などで盛り上がった。魚中会は関西魚中会が残っているだけだという話も出た。

また神戸山手女子高校音楽科の中村磨美・菊地葉子両講師のピアノ伴奏があり、吉崎氏のカラオケ、聞く人を魅了、山澤氏の歌唱など好評だった。山澤哲三氏の閉会の挨拶、高三会長の万歳三唱で、来年の再会を約束し散会した。（魚中四十八回卒）

富山県立魚津高等学校同窓会
〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
TEL (0765) 22－0221
FAX (0765) 22－9970

同窓会ホームページ
http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html
魚津高校ホームページ
http://www.uozu-h.tym.ed.jp/

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。